2022 年度 決算について

2022 年度は、物価の高騰が進む中、引き続きコロナ禍の影響等で中止や縮小を余儀なくされた事業もあり、支出面においては予算額を下回りました。

このような状況の中、取り組んだ主な事業としては、ICT を活用したハイブリッド型授業支援のための小講義室のデジタル化及び講義室間映像配信用機器の整備等です。

また、施設面においては、キャンパスのバリアフリー化を促進するため、エレベーター・多目的トイレの設置（S 棟）、自動ドアの設置（S 棟、フロンティア、130 周年記念館、臨床薬学教育研究センター）等の整備を行っています。

一方、収入については、主に学生生徒等納付金収入が予算編成時に想定した在籍学生数を上回り、増収となっています。

○ 資金収支計算書

⑴収入の部

学生生徒等納付金収入は、予算編成時に想定した在籍学生数を上回ったため予算額を 82,470 千円上回り、4,300,970 千円となりました。手数料収入は、ほぼ予算額と同じ 67,704 千円となりました。

一方で、寄附金収入は予算を 7,252 千円下回り、また、補助金収入は、予定していた研究装置の募集がなかったこと等により、施設整備費の補助金が予算額を下回り、補助金収入は 573,607 千円となりました。そのほか、付随事業・収益事業収入、受取利息・配当金収入、その他の収入についても予算額を下回る結果となっています。

以上により、収入の部の合計は、予算を 46,744 千円下回り、11,081,155 千円となりました。

⑵支出の部

人件費は、予算額を下回り 1,937,071 千円となりました。教育研究経費は、全体としては予算額を下回り 1,613,000 千円となりましたが、光熱水費については予算額の約 1.4 倍となっています。

管理経費支出は予算額を下回り 356,140 千円となりました。施設関係支出では、S 棟のエレベーター、多目的トイレ、自動ドア（S 棟、フロンティア、130 周年記念館、臨床薬学教育研究センター）、新校舎建築工事等の設計監理業務費、講義室間映像配信用機器の追加整備等で、予算額を上回り、272,048 千円となりました。設備関係支出では、予算額を下回り 176,481 千円となっています。資産運用支出は、組入計画に基づく組入や、事業債の購入等で、2,539,480 千円となりました。以上により、翌年度繰越支払資金は、3,579,523 千円となりました。

○ 事業活動収支計算書

⑴教育活動収支

「教育活動収支」は、学校法人の本業である教育研究事業の収支を表しています。学生生徒等納付金収入（4,300,970 千円）の経常収入（教育活動収入+教育活動外収入 5,202,486 千円）に占める割合（学生生徒等納付金比率）は 82.7％で、補助金収入（459,291 千円）の経常収入に占める割合 8.8％（経常費補助金比率）と合わせると 91.5％となり、本学の収入の大部分を占めています。

教育活動収支における事業活動支出においては、人件費（1,914,004 千円）の経常収入に占める割合（人件費比率）は 36.8%です。また、教育研究経費は 2,335,105 千円となり、経常収入に占める割合（教育研究経費比率）は 44.9％となりました。

⑵教育活動外収支

「教育活動外収支」は、経常的な収支のうち教育活動以外の収支で主に財務活動の収支を表しています。本学は、債券、投資信託、定期預金等の受取利息・配当金収入のみで、教育活動外収支差額は128,913千円となりました。経常収支差額（教育活動収支差額+教育活動外収支差額）は502,027千円となり、経常収支差額比率（経常収入に占める経常収支差額の割合）は9.6%となりました。

⑶特別収支

「特別収支」（特殊な要因によって一時的に発生した臨時的な収支）の特別収支差額（特別収入－特別支出）は138,236千円となりました。

⑷事業活動収支差額比率

事業活動収入は、5,350,524千円、事業活動支出4,710,260千円となり、基本金組入前当年度収支差額は、640,264 千円、事業活動収支差額比率（事業活動収入に占める基本金組入前当年度収支差額の割合）は12.0%となりました。

⑸基本金の組入れと翌年度繰越収支差額

基本金は、第1号基本金に145,851千円、第2号基本金には、教育研究総合センター等の整備費として509,361千円を組入れました。また、第3号基本金には奨学基金に5,932千円を組入れる等、計661,144千円の基本金組入となりました。この結果、当年度収支差額は△20,880千円となり、前年度からの収入超過額503,614千円を加え、翌年度繰越収支差額は482,733千円となりました。

○ 貸借対照表

⑴資産の部

有形固定資産は、設備整備や教育研究用機器備品の購入よりも、減価償却額が多かったため、前年比383,486千円減の12,191,281千円、特定資産は、第2号基本金引当特定資産の計画的組入、また、減価償却引当特定資産の積立等により、前年比865,779千円増の22,476,853千円となりました。また、流動資産は、前年比192,288千円増の3,923,442千円となり、その結果、資産の部合計は、前年比693,337千円増の38,732,875千円となりました。

⑵負債の部

負債のうち、固定負債850,547千円は長期未払金、退職給与引当金を計上しています。流動負債987,745千円は、未払金、前受金、預り金を計上しています。この結果、負債の部合計は1,838,292千円となりました。

⑶純資産の部

基本金661,144千円を組入れ、基本金の合計は36,411,849千円となりました。繰越収支差額は482,733千円となり、その結果、純資産の部合計は前年比640,264千円増の36,894,583千円となりました。

○財務状況の分析

事業活動収支決算をみると、収入全体では予算に対し、約43百万円の増加となっています。

一方、支出面においては、ロシアによるウクライナ侵攻や円安等の影響により物価の高騰が進む中、引き続きコロナ禍の影響等で中止や縮小を余儀なくされた事業もあったことから、予算に比べ135百万円の減少となりました。この結果、事業活動収支差額比率は12.0%となり、目標水準を維持しています。

〇財務上の課題、今後の方針・対応方策

本学は、2004 年から株式会社格付投資情報センター（Ｒ＆Ｉ）の格付「ＡＡ－（ダブルＡマイナス）」を取得しており、2022 年度も「ＡＡ－」を更新しました。2022 年度の格付調査においては、教育力の高さや私大薬学部トップクラスの就職実績に加え、教職協働の共通理念の下に「選ばれ続ける大学」として伝統と進化を融合した「京薬ブランド」を発展させる取組が評価されました。 「ＡＡ－」は、21 段階に区分されている格付順位の上から４番目であり、単科大学としては、極めて高い水準にあるといえます。

さらに、日本私立学校振興・共済事業団が公表している「定量的経営判断指標」に基づく分析でも、14 段階に区分されている経営状態の順位の上から 3 番目の正常状態にあり、本学の経営状態は安定していると言えます。

2023 年度は、電気・ガス等のエネルギーから食料品や日用品に至るまであらゆる物価が高騰している中、新棟建築を着実に推進していくとともに、京薬ブランドをより発展させるため、引き続き第 4 期中期計画等の施策を教職協働体制で取り進め、必要な原資や設備投資を安定的に確保することが重要な課題となることから、事業活動収支差額比率（事業活動収入に占める基本金組入前当年度収支差額の割合）が今後も 10%程度の水準を維持することを目標としています。